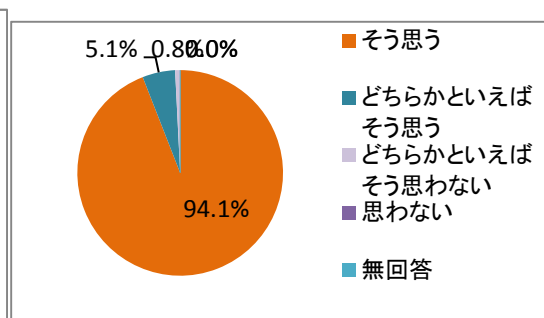
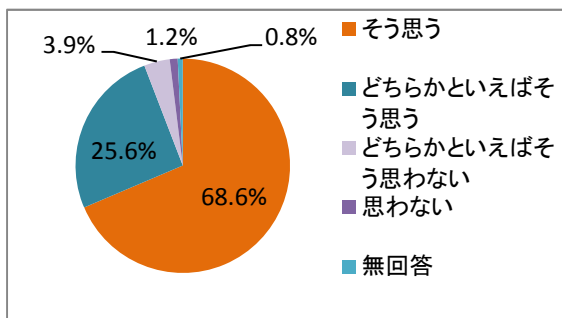


## 2. 事業の達成度について

- 協議会の設置により、がんの専門医、大学教授(有識者)、がん経験者保健福祉部局等関係者と連携ができた。
- 生徒は、授業及び専門医、がん経験者の話を聞くことにより、がんについて学ぶこと、がん患者に対する正しい理解を深めることができた。また、自他のいのちの大切さ、生き方について考えることができた。
- 中学校、高等学校でのがんの教育の実践を積み上げることができ、これらの学校での授業実践の指導案・資料をもとに、がん教育実践報告を作成し、県内の中学校・高等学校へ配付し、平成29年度からの実施に向けて見通しを持つことができた。
- 児童生徒・保護者への配慮について、どう対応していくか、留意事項を検討することができた。  
〈がん学習は、健康な生活を送るために重要だ〉

(授業実施前)

(授業実施後)



## 3. 今後の課題 (今回の事業により新たに見えた課題など)

### ○教職員の正しい理解

- ・がんについての正しい理解、がん患者に対する正しい認識、がんの教育そのものについて、まだまだ理解が不十分であるため、県内での、がんの教育実施に向け、教職員対象の研修会を実施する必要がある。
- ・小児がん、がん患者当事者又は家族への配慮について、対応できるようなQ&A及び、事前、事後の配慮について資料等を作成する。

### ○ 外部講師の選定

- ・岡山大学の西森助教、県保健福祉部局等の協力を得て、外部講師の選定を行う必要がある。

### ○ 関係機関との連携

- ・県保健福祉部局と引き続き連携を行い、岡山県におけるがん教育を推進する。

## 4. モデル校以外での取組について (課題や今後整理すべき事項など)

- ・モデル校以外での取組は特に行っていない。



1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

- ・がん教育総合支援事業協議会委員 15名  
 (内訳：県医師会1名・県歯科医師会1名・がん診療連携センター長1名・県看護協会1名・がん患者会1名・モデル校長4名・県中学校養護部会1名・県保健福祉部1名・県教委学校政策課1名・県教委体育学校安全課3名)

2. 検討時期、内容

○第1回協議会（平成27年7月3日（金））

議事：・徳島県がん教育総合支援事業について  
 （背景・目的・課題・戦略・施策説明）

- ・モデル校でのがん教育授業実践について  
 (モデル校での授業実践・授業内容・指導上の配慮・授業計画と評価 等)

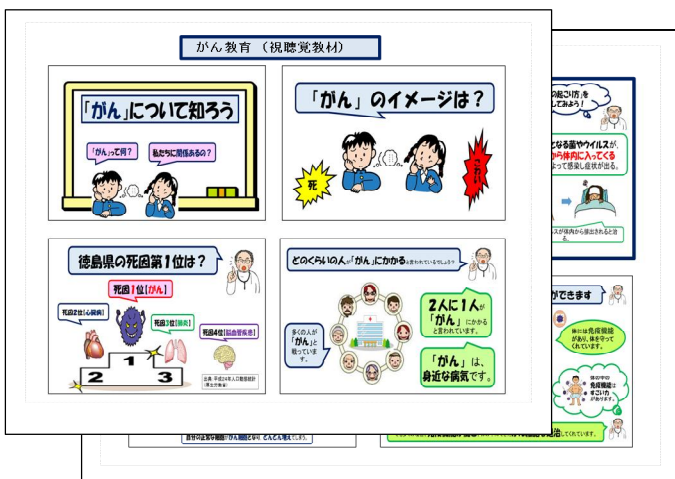
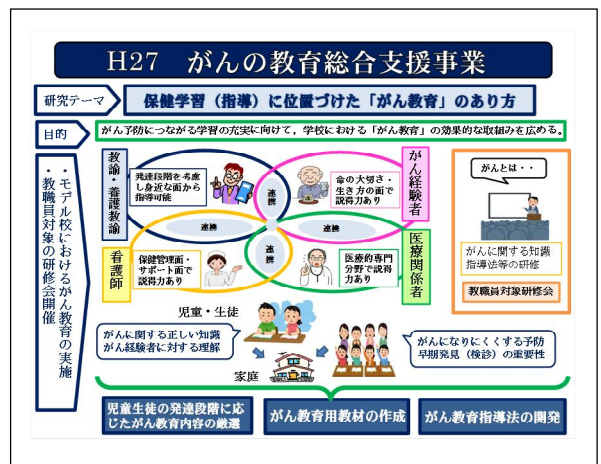
○第2回協議会（平成27年12月24日（木））

議事：・徳島県がん教育総合支援事業取組について  
 (取組報告・モデル校における授業実践の内容・今後の課題)

- ・成果と課題  
 (児童生徒の授業前後アンケート結果と考察・今後の課題)
- ・アンケート実施（協議会委員にがん教育に関するアンケート）

② 教育委員会としての取組

○教材作成（がん教育パワーポイント教材・がん経験者の思い視聴覚教材・クイズ教材）





学校現場でがん教育を実践するにあたって、教職員が使いやすくわかりやすい教材を作成

- ・[がんに関する知識・理解面] パワーポイント教材
- ・[興味・関心・わかりやすくする] クイズ教材
- ・[がん患者の思い・生き方の面] がん患者の思いを盛り込んだ視聴覚教材

○モデル校（中学校1校・小学校3校）を選定し、がん教育実践

- ・保健学習（指導）の中で「がん教育」のあり方（内容・教材・指導資料・指導法等）を研究
- ・外部講師を派遣し、外部講師と連携したがん教育を実践  
（公開授業・授業研究会・PTA 授業参観で公開・保護者懇談会・視聴覚教材やクイズ教材活用）
- ・授業実践前後の意識の変容を把握・評価



公開授業



授業研究会



PTA 参観授業



保護者懇談会



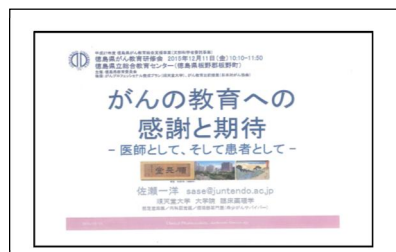
視聴覚教材活用授業



クイズ教材活用授業

○教職員対象の研修会実施（県内養護教諭・保健主事等293名参加）

- ・日時 平成27年12月11日（金）
- ・講演 「がん教育への感謝と期待～医師として、そして患者として～」
- ・講師 順天堂大学大学院 医学研究科 臨床薬理学 教授 佐瀬 一洋



がん教育総合支援事業  
報告書  
平成27年度  
徳島県教育委員会

○事業報告書の作成・配布

- ・事業の報告書を作成し、市町村教育委員会及び学校等へ周知、普及

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・がん教育実践の際、外部講師として「がん診療連携センター医師」や「がん患者」を依頼
- ・県保健福祉部の事業（「心に響け！がん検診メッセージ事業」「次世代健康教育事業」）を参考に県教育委員会の事業（「徳島県がん教育総合支援事業」）のあり方を検討

(2) モデル校における取組

学校	阿南第二中学校	桑野小学校	山口小学校	橘小学校
テーマ	保健学習（保健指導）に位置づけた「がん教育」のあり方			
講師	～医師&がん経験者としての情報を活用して～ (医師&がん経験者) 順天堂大学 佐瀬一洋	～がん経験者をサポートする立場から～ ( 県教委 ・看護師 ) ①県教委 布川美保 ②看護師 三木幸代	～がん教育教材を活用して～ ( 県教委 ) 県教委 布川美保	～がん経験者の情報を活用して～ ( がん経験者 ) AWA がん対策募金 川崎陽二
指導	【担任と医師(がん経験者)】のTT授業	【担任と外部講師】【校長と看護師】のTT授業	【担任と外部講師】のTT授業	【担任とがん経験者】のTT授業
対象	・中学年2年生	・小学5年生・6年生	・小学6年生	・小学6年生
授業単元	・総合的な学習の時間 	・保健学習「病気の予防」 ・総合的な学習の時間 	・保健学習「病気の予防」 	・保健学習「病気の予防」 
工夫	公開授業と授業研究会を開催し、指導のあり方等を協議する。	授業参観と保護者懇談会を開催し、親子で一緒にがん予防について考える。	「がんに関する知識・理解」に加え、「がん経験者からのメッセージ」を映像として視聴できる教材を作成する。	わかりやすく、興味をもたせる工夫として「クイズ教材」を作成して指導する。
成果	○「医学的専門分野に基づいた知識・情報」と「自らががん経験者である思い」の両面からの授業は説得力があった。 ○公開授業で多くの教職員が授業を参観でき、がん教育の進め方の参考となった。 ○授業研究会で意見交換できたことで、今後のがん教育のあり方等を協議する機会となった。	○「がんに関する知識」と「がん患者をサポートする立場からの思い」等を組み込んだ授業であり、キャリア教育や生き方に関わる指導へとつなげることができた。 ○PTA 参観日に実施できたことで、親子でがんについて学ぶことができ、生活習慣の大切さや、子育て面にも気づきを促す機会となった。 ○保護者懇談会で保護者とがん予防・早期発見・検診の大切さ等を再認識する機会となった。	○保健学習「病気の起こり方」を振り返りながら、感染症とがんの違いを教材にして関連指導ができた。 ○がんについて知識理解面だけでなく、がん経験者からのメッセージを視聴できたことで、生き方・命の大切さ・生活の質・共生面で説得力があった。	○がんに関する知識をクイズに答えながら、わかりやすく理解できる授業であった。 ○がん経験者の体験談は、命の大切さ・生き方・生活の質・共生面で説得力があった。 ○子供たちの質問に個別に答える交流を通し、子供の心に寄り添うサポートになった。